

## 2025 年度 国際交流委員会 冬季セミナー 報告書

テーマ：Advance Care Planning を世界と日本の「家族」から考える

開催日時：2026 年 2 月 7 日（土） 14 時－16 時

開催方法：オンライン ZOOM ミーティング

### 1. 目的

日本では、2024 年度診療報酬・介護報酬改定にて、「医療機関において、厚生労働省「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」等の内容を踏まえ、適切な意思決定支援に関する指針を定めること」が入院の大前提に掲げられた。ACP の考え方は日本においても以前より取り上げられているが、セミナーでは家族看護としての「家族の ACP」といった視点に焦点を当て、多様な領域で活躍する国内外の実践者の活動報告と、セミナー参加者とのディスカッションから、患者の ACP 支援に関連した家族システムへの看護実践の課題と可能性について検討した。

### 2. 内容

1) セミナーの意図と日本と海外の ACP に関する制度の違いについて（東京大学大学院池田真理先生）

2) 実践者からの報告

・スピーカー①：小児の緩和ケアにおける ACP と家族支援について

（Amy Haskamp, MSN, RN, PCNS-BC, CPON, CHPPN, FPCN, FAPHON

Pediatric Palliative Care Riley Hospital for Children at IU Health Hospital）→録画

・スピーカー②：成人・急性期領域の在宅ケアにおける ACP と家族支援について

（Dr. Martha Mansah BN (Hons), (PhD), Gradcert Higher Ed Griffith University）→録画

・スピーカー③：きょうだい児のケアと ACP 支援について

（岡山大学病院 金井あかり, 上村奈緒子）

3) ミニディスカッション

・7つほどの小グループに分かれて、発表内容を踏まえた家族の ACP 支援について検討

・グループ内で話し合った内容を全体で共有

・まとめ

### 3. 結果報告

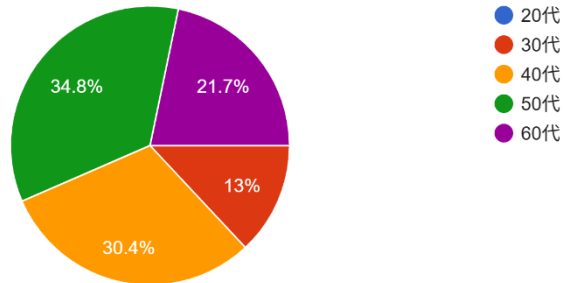
1) 参加者 62 名

2) アンケート集計結果

① 年代

ご年代を教えてください

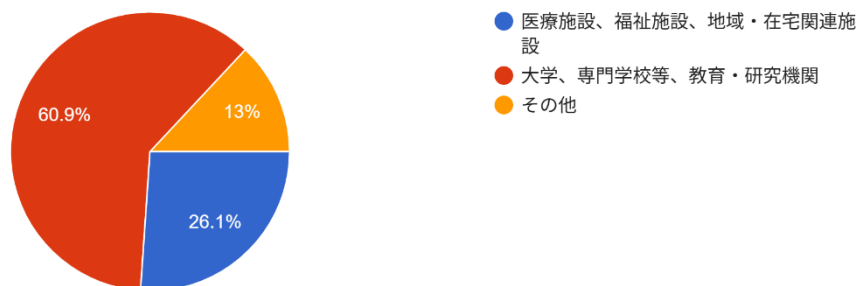
23件の回答



## ② 参加者所属

ご所属をお聞かせください

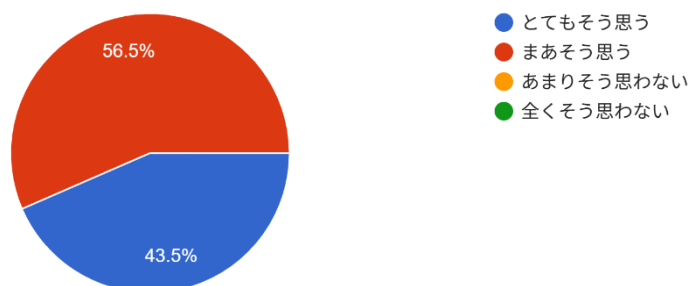
23件の回答



## ③-1 内容と希望の整合性について

1. 本日の内容は、参加希望に沿っていましたか？

23件の回答

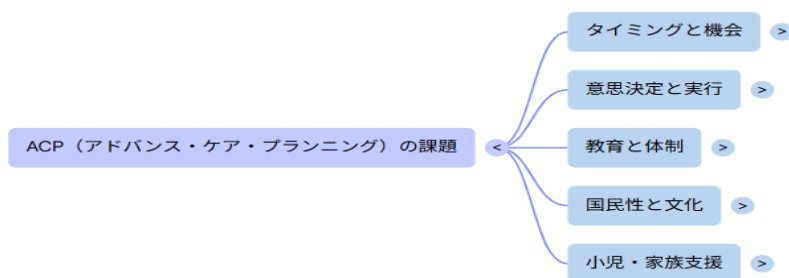


## ③-2 その理由（自由記載から抜粋）

- ・大人の ACP と子供に向けた ACP の違いや難しさを改めて感じる事が出来た。
- ・教育機関だけでなく臨床の方からも情報を得ることができ、実際と結びつけて考えることができました。また海外の状況も知ることができました。
- ・小児領域で、自分の分野ではありませんでしたが、関心領域でしたので参考になる部分が多かったです。
- ・新しい家族看護の課題について、わが国と他の国の活動の現状を知る貴重な機会になった
- ・小児の ACP に関する取り組みの報告はあまり多くないので貴重な機会だった。具体的な子どもとのかかわりについて聞いてよかった。
- ・ACP が十分に活用されていない等の問題の背景にある要因等を考えることができた。
- ・ACP に関する講演は、とても印象深く学びとなりました。Amy 先生のご講演で小児領域における基本的な知識を学んだ後に、金井先生から日本での実践をお聞きできたことにより、理解が深まりました。また実践での難しさも知ることができました。
- ・講義だけでなく、その後の小グループのディスカッションも有意義な時間でした。"
- ・トピックを定めて様々な国の異なる視点を知ることができて、共通点、相違点や課題がクリアになった。
- ・ACP に関して、国内、海外での取り組みについては理解できたが、海外での家族と関わりについて、具体的に聞く事ができればよかった。

#### ④ ACP について、難しさや課題に感じていること（自由記載の結果まとめ）

参加者は、**国内外の取り組みや小児領域**における特殊性を学ぶことで、多角的な視点から理解を深めたことが伺えます。一方で、対話を始める**適切なタイミング**の難しさや、**家族と医療者間での意向の相違**といった深刻な悩みも浮き彫りになっています。また、**多忙な臨床現場**での時間確保や、死を忌避する**日本特有の死生観**が、意思決定支援を阻む大きな要因として指摘されています。最終的に、地域や多職種が連携し、患者の**価値観を尊重し続ける体制**の構築が不可欠であると結論付けられています。



#### ⑤ 本セミナーに参加して、初めて知ったこと、学びになったと感じたこと

### ● 小児 ACP の実践とアプローチ

小児領域における ACP では、子供の発達段階に応じたきめ細かい説明や声掛けが重要であるという具体的な学びがありました。また、説明を行う前提として関係性作りが非常に重要であることや、予後不良になってからではなく、入院時の早い段階から多面的な視点で子供の気持ちや価値観を確認していく大切さが強調されました。

### ● ACP の本質的な理解

ACP は単なる「死への準備」や「将来の選択」ではなく、「今、この時をいかに安楽に、幸せに生きるか」という日々の生活を支えるための積み重ねであるという理解が深まりました。疾患を抱えていてもその人の生活は続いており、何が好きで何を大事にしたいかを聞き取り、日々の生活を整えることこそが看護職の職務であると再確認されました。

### ● 教育と支援者の姿勢

看護基礎教育などの早い段階から ACP 教育を導入することの重要性が指摘されました。支援者の価値観は支援のあり方に大きな影響を与えるため、対象者をフラットに捉える姿勢を養う教育が必要であると考えさせられたという意見が出ています。また、アメリカの研究者による対話例や「バイタルトーク」の手法も具体的な参考となりました。

### ● 国内外の現状と文化的背景

オーストラリアと日本の状況が似ていることや、アメリカの事例などが紹介され、終末期や死生観には文化的背景が大きく影響するという知見が得られました。国内においても、岡山大学病院の事例や若手研究者・実践者による取り組みが共有され、今後の議論の場への期待が高まっています

## ⑥ 国際的な活動をするために、学会に希望する支援

### ● 研究者や実践者による議論の場の創出

国内で国際的な視点を持って取り組んでいる若手研究者や実践者が、さらに議論を深められるような場を学会としてより多く創ることが期待されています。これにより、個々の知見を組織的に共有する体制が求められています。

### ● 海外の具体的な実践手法と現状の共有

海外の状況を実感として知る機会は限られているため、以下のような具体的な情報の提供が重要視されています。

- 具体的な対話例や手法の紹介: アメリカの研究者によるターミナル期の小児への対話例や、「バイタルトーク」のような具体的なコミュニケーション技術に関する情報の共有。
- 諸外国の教育・制度的背景の提示: オーストラリアやアメリカにおける ACP の立ち位置や、学部教育での取り組み状況など、各国の具体的な教育・臨床の現状を伝えること。

### ● 文化的背景を考慮した国際比較の促進

終末期や死生観には文化的背景が大きく影響するため、単なる手法の導入ではなく、日本と諸外国（例：オーストラリア）の状況の類似点や相違点を浮き彫りにするような支援が

求められています。

●看護基礎教育への国際的知見の反映

海外の調査結果などを活用し、看護基礎教育の段階から対象者をフラットに捉える姿勢をどのように養うかといった、教育方法の検討に資する国際的な知見の提供が期待されています。

●助成金、議論・交流を行う合宿形式の会議の開催

●一緒に参加してくれる仲間、関心領域の人たちとのワーキンググループの形成、参画へのサポート等

●国際学会への参加ツアー、国際誌への投稿に関する情報

⑦ セミナーの今後のテーマ希望

●国際比較と文化的背景への深い洞察

今回のセミナーで、終末期や死生観には文化的背景が大きく影響するという学びが得られたことを受け、さらなる国際的な知見を求める声が多く挙がっています。

・各国の家族看護の実際: アジアや欧米、多国籍な家族への対応など、文化を超えた関わりや海外の多様な実践例。

・国際比較研究: 日本の家族看護の立ち位置や「良さ」を浮き彫りにするための他国との比較、国際的な家族看護の課題。

・国際的な災害研究: 地震・津波が多い日本に対し、テロが中心となる紛争地など、地域による取り組みの違いや先駆者の知見。

●具体的なコミュニケーション技術と教育方法

小児 ACP において発達段階に応じた声掛けや関係性作りが重要であると再認識されたことから、より実践的なスキルの習得が望まれています。

・臨床でのコミュニケーション: 限られた時間内での希望の汲み取り方、面談の場の作り方。

・教育手法 (現任教育・集合教育): 「バイタルトーク」のような具体的な技術を看護師に教育する方法や、集合教育の限界を超えた効果的な現任教育のあり方。

●特定の領域・対象における支援の拡充

今回のメインテーマであった小児 ACP から派生し、対象を広げた支援への関心が高まっています。

・小児・思春期とその家族: 児童思春期の保護者支援の国際比較、移行期支援、きょうだい支援。

・成人・救急・意思決定支援: 成人領域での家族参画、救急医療における家族支援、判断能力が低下した世帯への意思決定を含めた支援。

●ライフサイクルと看取りの現状

「今、この時を大切にする支援」としての ACP の理解に基づき、人生の各段階におけるケアのあり方が問われています。

- 看取りの現状: 海外におけるエンドオブライフや各国での看取りの実際。
- 世代間比較: 日本の家族を世代間で比較し、変遷を理解するセミナー。

●実践に即した議論の場の継続

今回のセミナーのように、実践での課題を話題提供とともにディスカッションする形式が高い評価を得ており、今後も継続が期待されています。

- トピックスに応じた企画: 日本で注目されているテーマに合わせた柔軟な企画。
- 若手研究者・実践者の交流: 国内外で活動する若手が議論を深められる場の創出。

